

学校訪問記 ～ 特色ある教育を行う学校 ～

湘南から未来へ

社会とつながるESD

学校法人湘南学園
湘南学園中学校・高等学校

湘南学園中学校・高等学校

神奈川県藤沢市の小田急江ノ島線鶴沼海岸駅。サーフボードを抱えた人の姿も見られるこの駅から徒歩8分、閑静な住宅地に溶け込むように立つ湘南学園中学校・高等学校の校舎が現れます。

学校法人湘南学園は、昭和8年（1933年）に「個性と自由を尊重する教育」を望む保護者と教職員の協力によって、この地に創立されました。幼稚園・小学校から発足し、22年に中学校、25年に高等学校が開校しました。以来、総合学園としての歴史を重ね、昨年11月に創立85周年を迎えました。



中学校・高等学校校舎の外観

建学の精神に、「個性豊かにして身体健全 気品高く 社会の進歩に貢献できる 明朗有為な実力のある人間の育成」を掲げ、急速かつ複雑に変化していく社会の中で生き抜く力を身につけるための特色ある教育を行っています。湘南学園高等学校は、普通科のみの男女共学校で、高等学校からの生徒募集は行わず、中学校からの内部進学による6年間を通しての縦のつながりを大切にしています。

【ESDの推進】

湘南学園中学校・高等学校の教育の特色は、ESD (Education for Sustainable Development) です。ESDは、「持続可能な開発のための教育」と訳されます。すなわち、「持続可能な社会の担い手を育成する教育」です。

「持続可能な社会の担い手」であると同時に、自分らしく幸せに生きていく力や人間性を育むこと。社会の進歩に貢献できるグローバル市民となること。これが、本校が「湘南学園ESD」を構築し、推進する根本的な理由です。

生徒には、校内・校外におけるさま

ざまな出来事が「学び」であるという視点に立ち、学びをつなげ、発展させていくことで、社会の中を主体的に歩んでいく力を養うことを期待します。

【ESDの内容】

本校では、ESDの内容を、次のとおり定めています。
・総合学習 — 人間らしく生きられる社会を考える
・キャリア教育 — リアルな学び
・教科教育 — 「教えてもらう授業」から「考えて取り組む授業」へ
・食育 — 「いただきます」の意味を考える

・グローバルな学び — 世界と出会う
・協働を学ぶ自治活動 — 生徒が主役の学園
校舎内には、これらが大樹の枝と葉に見立てた図を掲げています。



ツリー状に表されたESDの関係図

【総合学習による人格形成】

ESDの中でも、軸となるのが「総合学習」です。
「命を尊重する」ことを土台として

つ、社会とのつながりを重視する本校では、20年以上前から系統的な総合学習に取り組んでいます。

中学校から高等学校までの6年間の発達段階を考慮したさまざまなテーマを設定し、広く人間の生き方や文化について、校外フィールドワークも交えて、生徒の認識と行動を豊かにしていくための活動です。

高等学校では、次の段階を上がっていきます。

・二年生 日本主体の問題に目を向ける
・二年生 地球規模の問題に目を向ける
・三年生 実社会に生きる人々に学ぶ
事前に学ぶ — 下調べを行う
体験する — リアルな学びを体験する
発信する — 学んだことを発表する

この過程を繰り返し行うことで、生徒は自分を知り、世界を知り、自分から行動する力身につけていきます。

「総合学習」は、自分をどのように活かして社会に貢献していくかを考えるための土台となっています。

【教員と生徒の関係】

本校の教員と生徒の関係は、「横」の関係にあります。教員は、生徒の伴走者でもあります。

教員からは、「つしなさい」ではな

く、「こうしたらどうか」と提案をし、生徒の考える力を引き出します。

例えば、体育祭を全員が安全で楽しめるにはどうしたらよいかを考える。修学旅行先としてふさわしい場所はどこかを考えるなどです。

生徒自らが問いを立て、答えを見つけて出すための指導を行っています。



学園から望む江の島の遠景

【生徒たちが主人公】
「生徒たちが主人公」。本校は、これを徹底しています。

教育内容は、校長からのトップダウンではなく、教員からのボトムアップにより決定します。上がってくるプランは、生徒のために意義のあることを形にしたいとの思いから、教員会議で徹底的に議論します。その中で、教員には、気づきをもたらされます。

【ESD入試の導入】

社会とつながる教育の重視、その一環として、知識偏重型ではない入試を実施したいと考え、平成31年度の中学校入試において「ESD入試」を新たに導入しました。

試験の事前提出物として動画があり、「小学校時代に取り組んだこと」、「湘南学園に入学したら挑戦したいこと」について、90秒以内で本人が語ります。その後、記述・論述試験に進むという試験です。

入学後にやりたいことが明確で、豊かな創造力を持つ受験生への期待を込めた試験です。

初の入試では、10名の募集に39名が受験しました。創立90周年には、この試験で入学した生徒は高校生になっています。

【保護者と教員の共同経営】

冒頭に記載のとおり、本学園の創立は、保護者と教職員の協力によるものです。その精神は、今日まで脈々と受け継がれています。

本学園の理事は現在13名、保護者から選任された理事8名、教員から選任された理事5名で理事会を構成しています。理事長、副理事長は、保護者が務めています（平成31年3月現在）。保護者と教員の共同経営は、日本で唯一のものと考えます。

保護者から理事が選任されることで、

保護者の意見が学園経営に反映されやすくなりますが、これに偏ることなく、また、教員の意見にも偏らない経営を行っています。

この共同経営という仕組みは、絶妙なものであると考えています。

保護者の理事は、子弟が卒業すれば、その職から離れることになります。一見すると、学園経営の継続性といった面で課題が出ることも考えられますが、この点について現理事長は、「理事長に就任して、人が代わっても考えていることは一緒だとわかった」との感想を持っていきます。

建学の精神を縦糸に、子を想う親の気持ちも横糸に、学園の歴史を紡いできた証です。



明るい雰囲気のカフェテリアの内部

【教育に関わる保護者】

保護者は、ESDのひとつにある「食育」にも関わっています。

学園生に安心安全な食事を提供したいという思いから、NPO法人湘南食育ラボを立ち上げ、創立80周年記念事業で建てられたカフェテリアの運営に携わっています。ここで味わえるメニューは、学園生、卒業生の母親たちの手によるものです。

【取材を終えて】

今回、理事長、副理事長や教員の方々からお話を伺い、また、伸びやかに学園生活を送る生徒の皆さんの姿を拝見する中で、「総合力」という言葉が浮かんできました。

学園経営・学園教育への保護者の参加、生徒に寄り添う教員の指導、主体的に学習や学校行事に取り組む生徒の意欲、これらが三位一体となり、「チーム湘南学園」の原動力となっていると感じます。

「生徒に任せることに慣れてきた」。校長先生の一言が印象に残ります。

大学に入るだけの生徒ではなく、社会に出て通用していく生徒を育てるべく、ESDを追求してきた成果といえそうです。

帰り道に見上げた湘南の、どこまでも青く、広い空は、湘南学園で学ぶ生徒の想いを映し出しているようでした。

(取材) 私学経営情報センター